



FUJIBO

The Focus on Innovation

第**204**期

報告書

2023年4月1日 ▶ 2024年3月31日

富士紡ホールディングス株式会社

証券コード：3104



代表取締役社長

いのうえまさひで

井上雅偉

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第204期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の事業の概況等について、次のとおりご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、社会・経済活動の正常化が一段と進展したことに伴い、緩やかな回復傾向がみられました。一方で中東やウクライナにおける紛争の長期化、中国経済の低迷、常態化する円安などの影響でエネルギー価格の高騰や物価上昇が続くなど、先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような経営環境の下、当フジボウグループは、中期経営計画『増強21-25』において、計画期間5年間の前半3年を「高収益体質への転換と種まき」ステージと位置づけ、各事業の成長基盤の増強に取り組んでおります。計画3年目となる当期については、事業の柱である研磨材事業は、半導体用途の需要が2022年下期から大幅に減少しましたが、2023年上期後半より底打ちの兆しが見え始め、緩やかな回復基調となりました。化学工業品事業は、中国経済の低迷に加え、電子材料を中心とした市況悪化に直面し、厳しい環境となりました。生活衣料事業は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行されたことにより、行動制限が全面的に解除され、店舗販売は改善傾向に向かいました。

この結果、当期の業績は、連結売上高は前年同期比1,560百万円(4.1%)減収の36,108百万円、営業利益は2,054百万円(42.2%)減益の2,818百万円、経常利益は1,764百万円(35.0%)減益の3,276百万円となりました。これに特別損益、法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比1,282百万円(37.7%)減益の2,117百万円となりました。

当期の期末配当につきましては、経営環境および業績等を勘案し、1株当たり55円とさせていただきます。これにより、中間配当55円を加えました当期の年間配当は、1株につき110円となります。

当社は、2021年度から2025年度を計画期間とする中期経営計画『増強21-25』を実行しています。本中期経営計画では、未来のありたい姿から導出した2025年像と現状の延長線上の2025年像とのギャップを特定し、中期的に取り

組む施策を着実に実施します。加えて事業ポートフォリオの積極的な見直しと持続可能で儲かるビジネスへの転換を段階的に図ることにより、「圧倒的なニッチナンバーワン企業」をめざします。計画期間5年間の前半3年を「高収益体質への転換と種まき」ステージ、後半2年を「非連続的成長の実現」ステージと位置づけ、収益機会の増加と提供価値の強化を施策の両輪として、『稼ぐ力』を強化いたします。同時にDX(デジタルトランスフォーメーション)の継続・深化にも取り組み、各事業の成長基盤を連続的・非連続的に「増強」していきます。

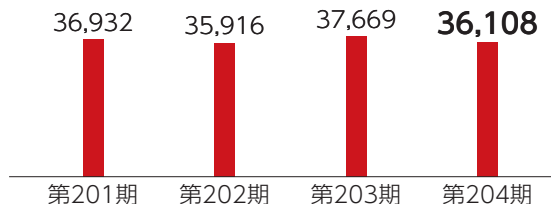
主力の研磨材事業では、半導体市場が底打ちし、緩やかな回復基調にあります。また、回復が遅れているレガシー半導体についても、順次回復に向かうものとみています。今後の拡大に向けた対応を段階的に図るため、生産能力増強設備の導入や技術開発棟の建設を進めています。加えて、台湾に研究開発施設を設置し、ユーザーからの要望に対応することで、将来の売上拡大につなげていきます。化学工業品事業では、化学品市況が、世界的な需要の減退に加え、半導体を中心とした電子材料市況の悪化により厳しい事業環境が続いています。柳井・武生両工場の連携強化をさらに進めるとともに、新規の顧客開拓や受注獲得への取り組みを行い、設備稼働の安定化を進めます。また、需要が堅調な一部の機能性材料については、顧客の需要動向に合わせた設備能力拡大に向けて、新プラントの建設を進めていきます。生活衣料事業では、アパレル業界は外出機会やインバウンド需要の増加もあり緩やかな回復傾向にあります。引き続き高収益定番商品への販売集中と、海外顧客向け製品の販売拡大に注力します。また、好調なネット販売をさらに拡大させるため、SNSなどを活用したダイレクトマーケティングにより、Eコマース型ビジネスモデルへの転換を順次進めています。その他の事業では、化成品事業は、医療機器用途向け需要の更なる拡大が見込まれるため、大分・本庄両工場が一体となった生産体制の構築と増強した生産設備の安定稼働を実現し、重点3事業に続く第4の柱事業として育成すべく基盤整備を進めています。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年6月

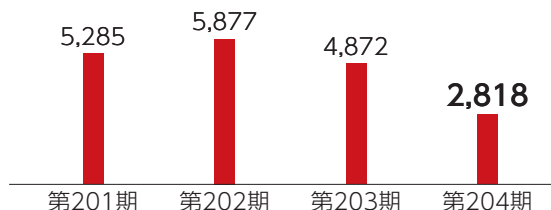
売上高

(単位：百万円)



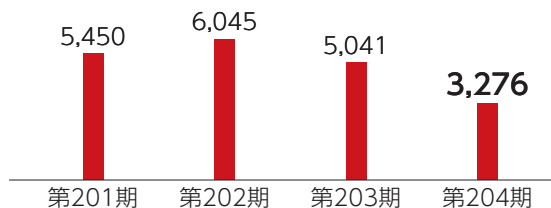
営業利益

(単位：百万円)



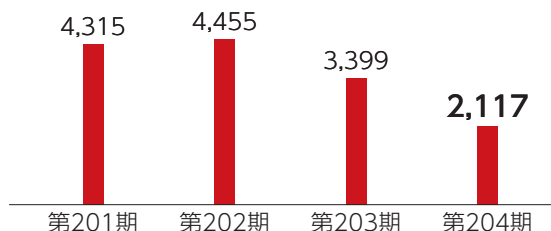
経常利益

(単位：百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)



売上高構成比
37.2%

研 磨 材 事 業

売上高 13,416百万円 営業利益 1,087百万円

主力の超精密加工用研磨材は、半導体デバイス用途(CMP)は期前半では半導体市場の調整局面の影響を受け受注が減少しましたが、期後半に入り主要半導体メーカー各社の在庫調整が進み、徐々に需要回復の兆しがみられました。シリコンウエハー用途は全体的な半導体デバイスの需要減により受注減、ハードディスク用途はデータセンター向け需要の低迷が継続、液晶ガラス用途においても世界的なインフレにより、テレビ、パソコン、スマートフォンなどで使われる液晶パネルの需要の鈍化もあり受注が減少しました。一方、電気自動車(EV)をはじめとする車載向けやデータセンター向けに利用されるパワー半導体などの分野では、好調な需要が続きました。

この結果、売上高は前年同期比1,657百万円(11.0%)減収の13,416百万円となり、営業利益は1,740百万円(61.5%)減益の1,087百万円となりました。



売上高構成比
34.7%

化学工業品事業

売上高 12,519百万円 営業利益 888百万円

機能性材料、医薬中間体および農薬中間体などの受託製造は、昨年度から続く原材料・エネルギーコスト等の上昇を年度初めから販売価格に転嫁し、利益の確保を図りました。しかし、中国経済の低調を背景として化学業界全般的に需要が低迷するなか、とりわけ電子材料市況の悪化が継続し厳しい事業環境となりました。そのため、工場の一部製造ラインにおいては稼働低下を余儀なくされ、利益は圧迫されました。

この結果、売上高は前年同期比144百万円(1.2%)増収の12,519百万円となり、営業利益は142百万円(13.8%)減益の888百万円となりました。



売上高構成比
19.2%

生活衣料事業

売上高 6,952百万円 営業利益 782百万円

繊維素材は、物流費や原材料費の高騰によるコストアップに加えて、円安が影響し、厳しい環境が続きました。繊維製品は、高収益の年間定番商品は堅調に推移しましたが、残暑や暖冬の影響により秋冬商品が苦戦、委託販売の撤退等も影響し減収となりました。ネット販売では、継続的なSNS、検索広告に加えネット専用製品など商品力向上施策が奏功し伸長しました。一方、高品質な日本製が評価され、海外向け販売は大幅に増加しました。

この結果、売上高は前年同期比327百万円(4.5%)減収の6,952百万円となり、営業利益は107百万円(12.1%)減益の782百万円となりました。



売上高構成比
8.9%

その他の事業

売上高 3,219百万円 営業利益 59百万円

化成品事業の成形品部門は、医療機器用部品の受注が堅調に推移し増収となりました。金型部門は、自動車向け金型ではEV化シフトを含めた開発案件の端境期のため受注が減少しましたが、事務用機器や医療機器用金型では比較的堅調に推移しました。貿易部門は、昨年のコロナ特需の反動と主力車種のモデルチェンジによる生産中止の影響で受注減となりましたが、更なる拡販と収益確保に取り組みました。

この結果、売上高は前年同期比279百万円(9.5%)増収の3,219百万円となり、営業利益は64百万円(52.0%)減益の59百万円となりました。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期 2024年 3 月31日 現 在	前 期 2023年 3 月31日 現 在	科 目	当 期 2024年 3 月31日 現 在	前 期 2023年 3 月31日 現 在
資産の部	62,512	61,368	負債の部	18,539	18,448
流動資産	23,689	23,003	流動負債	11,756	11,869
現金及び預金	8,262	8,105	支払手形及び買掛金	4,156	4,087
受取手形	284	249	電子記録債務	1,095	1,155
電子記録債権	605	663	短期借入金	1,223	1,292
売掛金	8,270	7,089	リース債務	48	54
商品及び製品	1,071	1,109	未払法人税等	497	709
仕掛品	2,702	2,814	契約負債	142	125
原材料及び貯蔵品	1,664	1,947	賞与引当金	734	727
その他	837	1,030	その他	3,857	3,716
貸倒引当金	△7	△7			
固定資産	38,822	38,365	固定負債	6,782	6,578
有形固定資産	33,962	33,968	長期借入金	210	26
建物及び構築物	10,806	11,091	リース債務	74	105
機械装置及び運搬具	6,563	7,458	繰延税金負債	1,016	833
土地	13,858	13,852	再評価に係る繰延税金負債	723	729
リース資産	72	86	退職給付に係る負債	4,170	4,276
建設仮勘定	905	361	資産除去債務	500	490
その他	1,754	1,117	その他	85	116
無形固定資産	1,217	1,397			
のれん	1,002	1,142	純資産の部	43,973	42,920
その他	214	254	株主資本	40,569	40,179
投資その他の資産	3,643	3,000	資本金	6,673	6,673
投資有価証券	2,773	2,175	資本剰余金	2,213	2,206
繰延税金資産	368	394	利益剰余金	32,684	31,815
その他	501	430	自己株式	△1,002	△515
資産合計	62,512	61,368	その他の包括利益累計額	3,403	2,740
			その他有価証券評価差額金	1,204	731
			繰延ヘッジ損益	△4	1
			土地再評価差額金	1,527	1,540
			為替換算調整勘定	742	523
			退職給付に係る調整累計額	△67	△56
			非支配株主持分	0	0
			負債純資産合計	62,512	61,368

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 2023年 4 月 1 日～ 2024年 3 月31日	前 期 2022年 4 月 1 日～ 2023年 3 月31日
売上高	36,108	37,669
売上原価	25,495	25,523
売上総利益	10,613	12,145
販売費及び一般管理費	7,794	7,273
営業利益	2,818	4,872
営業外収益	682	448
受取利息	1	0
受取配当金	76	62
固定資産賃貸料	306	351
補助金収入	200	—
その他	96	33
営業外費用	224	279
支払利息	24	14
固定資産賃貸費用	84	78
遊休資産諸費用	28	35
コミットメントフィー	32	32
為替差損	24	67
防災対策費用	—	31
その他	29	20
経常利益	3,276	5,041
特別利益	142	4
固定資産売却益	14	4
投資有価証券売却益	128	0
特別損失	168	88
固定資産処分損	79	69
減損損失	88	18
その他	0	0
税金等調整前当期純利益	3,251	4,957
法人税、住民税及び事業税	1,094	1,497
法人税等調整額	39	60
当期純利益	2,117	3,399
非支配株主に帰属する当期純利益	0	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,117	3,399

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 2023年 4 月 1 日～ 2024年 3 月31日	前 期 2022年 4 月 1 日～ 2023年 3 月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,987	5,175
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,094	△3,554
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,786	△1,899
現金及び現金同等物に係る換算差額	48	53
現金及び現金同等物の増減額（減少：△）	155	△224
現金及び現金同等物の期首残高	8,090	8,315
現金及び現金同等物の期末残高	8,245	8,090

Topics

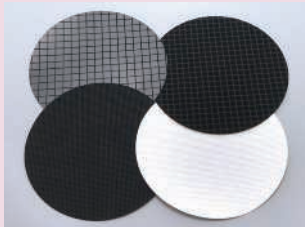
Topics

1

研磨材事業

超精密加工用研磨材 —生産設備の増強—

半導体の超精密研磨加工プロセスで使用される研磨材のソフトパッドで高いシェアを誇るフジボウ愛媛(株)。AIの活用、メタバースによる仮想空間のビジネス化、車載向け半導体需要増などにより、最先端半導体やパワー半導体の市場がさらに拡大しています。



今後の半導体需要増に応えるとともに、ソフトパッドの高い品質安定性を確保するため、新たに配合棟を



壬生川工場に建設し、ウレタン樹脂などの原料の配合・調整を担う製造の前工程設備を増強いたしました。

社会のデジタル化の加速で、半導体の需要は着実に伸び続けるものと予想されますが、この新たな配合棟により需要増と高品質化のユーザーニーズに応えていきます。今後も積極的な設備投資を通じて、高品質な研磨材の研究開発、安定供給を続けることにより、半導体業界を支え、社会の発展に貢献してまいります。

Topics

2

化学工業品事業

柳井本社工場で プラント新設に着手

柳井化学工業(株)では、中期経営計画『増強21-25』に沿って更なる業容拡大に取り組んでいます。このほど機能性材料の中長期にわたる需要拡大に応えるため、柳井本社工場に第5プラントを新設すべく、本体工事と付帯工事を合わせて総額62億円の設備投資を実施することとしました。



すでにZEB (Net Zero Energy Building) 倉庫の新設、品質管理部門の拡張、工場エリアの事務所棟増築が完了しており、現在は変電設備の増強、一般/危険物倉庫の新設、各種タンク類の増設、消火設備の新設に取り掛かっています。今後、本体工事



の詳細設計を経て新建屋の建設を始め、2025年度内の竣工、2026年度初めからの本格稼働をめざし、工場一丸となって作業を進めています。

化学工業品事業においては、武生工場との連携を強化し、中期経営計画で掲げた目標の実現に向けて取り組んでまいります。

“見て” “触れて” “感じて” 和歌山工場に展示ルームを設置

ニットの染色整理加工で高い技術力を誇るフジボウテキスタイル(株)和歌山工場。独自の風合加工や機能加工が欧米の高級アパレルブランドに評価され、海外需要が着実に伸びています。

昨秋、海外での更なる販路拡大を企図して、工場



敷地内に展示ルームを設置しました。和歌山工場の特化加工に加えて、小坂井工場の機能

性合成繊維も展示し、フジボウのオリジナル商品群を“見て” “触れて” “感じて”いただけるスペースとして運用しています。これまで多くの海外企業との商談が行われ、既に複数回来場された方もいらっしゃるほどです。

この展示ルームは、地元の企業間の垣根を越えた交流や情報交換の場としても活用され、ニットの産地として知られている和歌山の魅力を発信する場としても重要な役割を果たしています。



Topics

3

生活衣料事業

「ふくのわプロジェクト」で パラスポーツを支援

当社は「ふくのわプロジェクト」（産経新聞社主催）のオフィシャルパートナーとなって9年目を迎えます。

「ふくのわプロジェクト」はまだ使える衣類を回収・リユース（再利用）し、その収益金をパラスポーツの競技団体に寄付する活動です。



その活動の一環として、本年3月に東京都内の小学校において日本パラ・パワーリフティング連盟の協力により、競技デモンストレー

ションや選手からのメッセージを通じてパラスポーツへの理解を深める交流授業が開催されました。

交流授業で講師を務めたパラ・パワーリフティング女子41キロ級で日本記録を持つ成毛美和選手が、フジボウグループで実施した「衣類回収強化週間」に本社へ来訪され、「ふくのわ」への感謝の言葉と共に衣類を寄付してくださいました。



※産経新聞社提供

Topics

4

サステナビリティ

会社概要 (2024年3月31日現在)

商 号	富士紡ホールディングス株式会社
本社所在地	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町一丁目18番12号
大 阪 支 社	〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町一丁目8番12号
設 立	1896年3月24日
資 本 金	66億7383万2000円
従 業 員 数	単体106名 連結1,299名
主 要 な 事 業 内 容	1. 研磨材・不織布・合皮の製造、加工、販売 2. 各種化学工業品の製造、加工、販売 3. 各種繊維製品の製造、加工、販売

連結対象会社 (2024年3月31日現在)

■ 研磨材事業	■ 生活衣料事業
フジボウ愛媛(株)	(株)フジボウアパレル
台湾富士紡精密材料股份有限公司	ジンタナフジボウコーポレーション
フジケミ(株)	フジボウテキスタイル(株)
	タイフジボウテキスタイル(株)
■ 化学工業品事業	富士紡(上海)商貿有限公司
柳井化学工業(株)	
■ その他の事業	
フジケミ(株)	
(株)東京金型	
(株)IPM	

役員 (2024年6月27日現在)

代表取締役社長 社 長 執行役員	井 上 雅 偉
代 表 取 締 役 専務執行役員	豊 岡 保 雄
代 表 取 締 役 常務執行役員	平 野 治
取 締 役 上 席 執行役員	望 月 吉 見
取 締 役 上 席 執行役員	佐々木 辰 也
取 締 役	ルース・マリー・ジャーマン
取 締 役	小 林 久 志
取 締 役	佐 藤 梨江子
取 締 役	壺 田 貴 弘
常 勤 監 査 役	野 口 篤 謙
常 勤 監 査 役	岡 本 勝 彦
監 査 役	大 塚 幸太郎
監 査 役	藤 居 勝 也

(注) 1. 取締役のルース・マリー・ジャーマン、小林久志、佐藤梨江子、壺田貴弘の4氏は社外取締役であります。
2. 監査役の岡本勝彦、大塚幸太郎、藤居勝也の3氏は社外監査役であります。

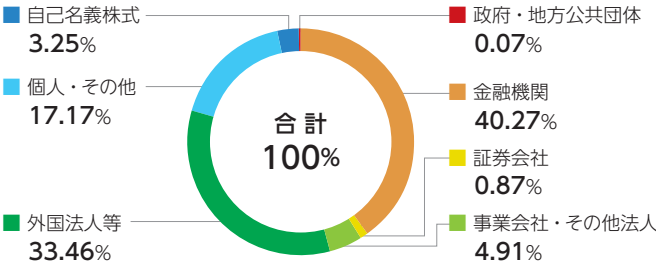
執行役員 (2024年6月27日現在)

常務執行役員	鈴 木 眞
常務執行役員	安 藤 興 司
常務執行役員	清 水 康 弘
上 席 執行役員	岡 田 祐 明
執 行 役 員	中 村 隆 夫
執 行 役 員	戸 坂 浩 二
執 行 役 員	広 田 幸 史
執 行 役 員	鈴 木 基 文
執 行 役 員	武 田 秀 則

株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式の総数	11,720,000株
株主数	5,686名

所有者別分布状況

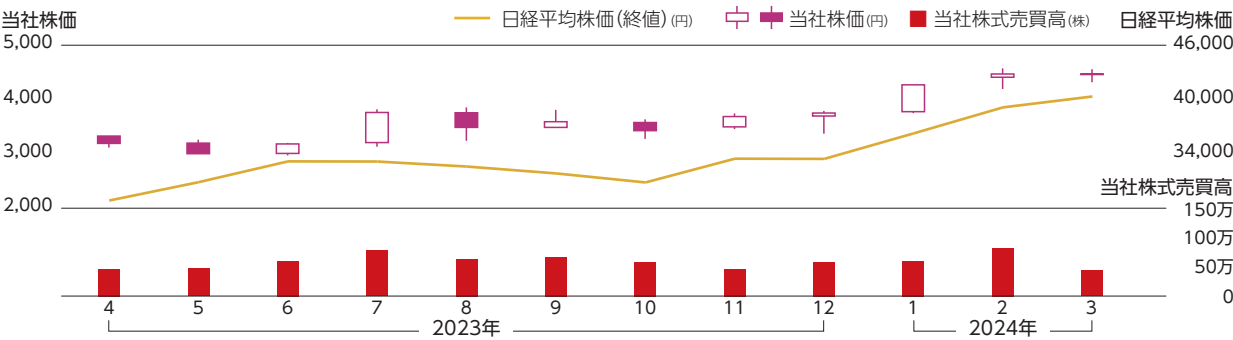


大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,744,100	15.38
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,052,000	9.28
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	875,900	7.72
明治安田生命保険相互会社	533,500	4.71
株式会社三菱UFJ銀行	500,000	4.41
BBH (LUX) FOR FIDELITY FUNDS – PACIFIC POOL	427,600	3.77
三菱UFJ信託銀行株式会社	322,500	2.84
フジボウ共栄会	309,300	2.73
福岡 務	206,200	1.82
JPLLC CLIENT ASSETS – SK J	189,500	1.67

(注) 1. 当社は自己株式を381,226株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

当社株価・売買高および日経平均株価の推移 (東京証券取引所)



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.fujibo.co.jp/>
(ただし、やむを得ない事由によって電子公告に
よることができない場合は、東京都において
発行する日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

富士紡ホールディングス株式会社

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-18-12
電話 03-3665-7777(代)



<https://www.fujibo.co.jp/>

